

陸上貨物取扱業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労働 者規 模
1999	3	21 ～ 22	2名で壁の養生材の撤去作業を開始し、ベニヤ壁に立てかけてあったパーティションの部材を移動しようとしたときに、ボードが倒れかかり2名では支えきれないため、1名は退避したが1名は転倒し、コンピュータ搬入用に設置したスロープの角に頭部を強打した。	529	5	100 ～ 299
1999	3	10 ～ 11	倉庫から商品の品出し、ピッカーに乗って床から2.8Mの高さまで上昇し、商品棚の3段目に置いてあった日本酒のビンを取出す作業を行っていた1階の床に転落した。	222	1	10～ 29
1999	4	10 ～ 11	フォークリフトで梱包した合板をはい積みしてフォークリフトを後進させようとしたときに、最上部の合板が崩壊して運転席に落下し、ヘッドガードが押しつぶされた。	611	5	50～ 99
1999	1	14 ～ 15	フォークリフトで運搬する荷の場所を確認するため、他のフォークリフト運転者を呼び止め、フォークリフト横で伝票を示していたところへ、10tトラックが後進してきて10tトラック荷台とフォークリフト車体との間に挟まれた。	221	6	1～9
1999	7	9 ～ 10	冷蔵倉庫の製品出荷用プラットホームにおいて、貨物自動車に積込む製品を荷役するため空荷のリーチフォークリフトを運転中、方向転換をしようとして倉庫壁部の火災警報ボックスに腰部を激突させた。	222	3	1～9
1999	4	18 ～ 19	資材置場で荷を4tトラックに積み込み、荷に上ってワイヤーロープで固縛していたときに、約3.6m下の地面に墜落した。	221	1	10～ 29

1999	8	7 ～ 8	空コンテナ(重さ約1.5t)を清掃するためサイドシフト付カウンタバラン スフォークリフト(最大荷重12.5t)で移動作業中、移動させるコンテナの 上面左後部が左隣に2段積みしていたコンテナの上段底面右後部に接触し ていることに気付かないままリフトアップしながら後退させたため、上段 のコンテナ落下し、清掃作業をしていた者がコンテナの下敷きになった。	611	4	30～ 49
1999	8	8 ～ 9	会社に出勤のため会社のワゴン車で走行中、対向車線の大型トレーラーが 中央分離帯の鉄柵を破り飛び出してきて正面衝突し、後部席の者が死亡、 他の同乗者3人が重軽傷を負った。	221	17	1～9
1999	9	21 ～ 22	貨物ターミナルで、列車のダイヤが乱れていたため隣の4ホームの作業を 手伝い、作業終了後、持場へ戻るため線路を横断していたときに、進入し てきた列車にはねられた。	223	18	50～ 99
1999	9	10 ～ 11	吊上げ荷重35tの移動式クレーン(トラス構造)のジブ先端に上がったとき に、約16m下の路面に墜落した。	212	1	30～ 49
1999	11	9 ～ 10	積荷のドロマイドを陸揚げするため、船倉内においてブルドーザー(機体 重量5t)でドロマイドをかき寄せる作業しているときに、ブルドーザーを ハッチの下まで入れ過ぎたため、ハッチとブルドーザーの運転席のレバー との間に挟まれた。	141	7	300 ～ 499
2000	4	14 ～ 15	中2階の作業場で出荷する品物の分別作業を行っているときに、在庫のな い品物の伝票を1階に戻すためプラスチック製の籠に伝票を入れて手で釣 り下げていたところ、後ろからきた手押し式の籠車(荷運び用台車)に押さ れ1階に転落した。	414	1	10～ 29
2000	1	0 ～ 1	190Nリッドヒンジアウターライン設備(1.2t)をレッカーで2階に上げ、 ハンドリフトでジャッキアップして3台のチルローラーに移し替えて移動 させようとしたときに、設備のバランスが崩れ、1名は横に逃げたがもう1 名は支えようとして足を滑らせ前に倒れ下敷きとなった。	159	6	1～9
2000	7	10 ～	ドラムクランプを装着したフォークリフトで、空のドラム缶をトラックの 荷台から空缶置場に移動、整理する作業中に、フォークリフトの操作を	222	2	10～

		11	誤ってリフトとともに転倒しリフトの屋根と地面との間に挟まれた。			29
2000	12	10 ～ 11	スリットコイル(径1400mm)にビニールシート掛けをして作業終了後に、コイル上から飛び降りたときに着地に失敗して後方へ転倒した。	416	2	100 ～ 299
2000	12	16 ～ 17	製品保管ラックの最上段(高さ334cm)に積み上げられたパッケージケース(ダンボール箱、質量約12～13kg)を出荷するため、フォークリフトを棚の横に停車させてパレット最上段へ昇って一番上のケースを降ろしているときに墜落した。	419	1	10～ 29
2000	11	10 ～ 11	眼鏡レンズとコンタクトレンズの配達のため自転車で走行中、国道交差点を青信号で横断中に、左折してきた大型トラックに巻き込まれた。	221	17	10～ 29
2000	12	6 ～ 7	印刷物を運ぶため4tトラックで国道を走行中、旧国道へ入る交差点で右折車線で信号待ちをしていた16tタンクローリーに追突し、その時タンクローリーから流失したガソリン4000?に引火して2台とも炎上、トラックの運転手が焼死した。	221	17	30～ 49
2000	1	13 ～ 14	物流センターの倉庫内でダンボールの抜き取り作業を行うため、1.5tのフォークリフトのパレット上で、高さ4mの位置にあるダンボール(重量：32kg)をパレットに移そうとしたときに、パレットから3m下の床面に墜落した。	222	1	50～ 99
2000	12	10 ～ 11	仮り組みされた移載機(質量450kg)を梱包するため、同僚と2人でホイスト式天井クレーン(吊上げ荷重2.8t)で相吊りで横行移動していたときに、荷を吊っていたベルトスリングが荷から外れたため、落下してきた荷に頭部を直撃された。	372	4	10～ 29
2001	2	18 ～ 19	運搬する鉄製の部品柵(重さ145kg)を空の状態に2段に積み重ね、1.5tフォークリフトに乗せて倉庫軒下から倉庫内へ引き入れる作業を行っていたところ、2段目の柵が崩れ落ちて下敷きになった。	222	5	30～ 49
		13	閉鎖した紡績工場内から紡績機械を搬出するため、同僚と2人で人力式			

2001	4	～	ジャッキを使用し紡績機械をジャッキアップしていたときに、機械が倒れ	361	5	1～9
	14		その下敷きになった。			
2001	7	6	トラックで自動車道を走行中、対向のタンクローリーがセンターラインを	221	17	30～
		7	超えて乗用車に衝突し、さらにその後にはいたトラックに衝突してきた。			49
2001	10	8	倉庫で、当日出荷予定の製品をピッキングトラックで移動する作業を行っ	222	1	1～9
		9	ていたときに、ラック4段目(高さ約5m)から荷とともに墜落した。			
2001	10	15	ユーカリのチップを搬入しトラック(19. 4t)のダンパー(トラックごと傾斜	522	5	50～
		16	させ、チップをホッパーに投入する機械)で荷降ろし作業を行っていた者			99
			が、ホッパー内のチップに埋もれた状態で発見された。			
2001	12	17	作業場で倉庫荷物入力業務に従事していた者が、事務所に行くため歩いて	222	6	10～
		18	いたところ、走行してきたフォークリフトに左足を左後輪にひかれて転倒			29
			し、地面に後頭部を強打した。			
2001	12	16	コンクリート工場で直径500mmのヒューム管の5段目のはい積み作業を	611	1	50～
		17	行っているときに、高さ約2. 7mの4段目のヒューム管から足を踏み外し			99
			て墜落した。			
2001	12	0	国道の路肩に停車していたローリー車が道路の傾斜のため後方に動き出	221	17	100
		1	し、後方から走行してきたトラックに追突され路肩の脇にいたローリーの			～
			運転手が死亡した。			299
2002	2	17	事業場の岸壁から約15m離れたの海面に浮かんでいるところを同僚が発見	713	10	10～
		18	し、消防隊が救助しようとしたがろ海中に沈み、2日後に水死体で発見さ			29
			れた。			
2002	3	16	倉庫内でフォークリフトを用いて荷出し作業中、高さ3.2mの運転席から	222	1	50～
		17	転落し頭部を強打した。			99
			事務所の引越しでビル内に荷物を搬入するため、コンビテナー			

2002	1	11 ～ 12	(84×64×高さ138cm、パイプ製天井無しのカゴ型人力運搬機)に長さ180cm、質量約20kgの机天板16枚を載せて2名で運搬中、36cmの段差部分に長さ242cm、厚さ2cmの板を架けたスロープ(傾斜角約10度)の個所でコンビテナーが後方に転倒し、後方で押していた者が下敷きになった。	362	5	100 ～ 299
2002	6	9 ～ 10	1.5tトラックで国道を走行中、緩やかな下り坂でセンターラインをオーバーし対向のトラックと正面衝突した。	221	17	10～ 29
2002	3	13 ～ 14	倉庫内で、フォークリフを使用して18パレットのうち17パレット目をエレベーターに搬入したのち倉庫内をバックで走行してプラットホームまで来たときに、プラットホームから約1m下の地面にフォークリフトとともに転落し、地面とヘッドガードとの間に頭部を挟まれた。	222	1	10～ 29
2002	5	16 ～ 17	4人が乗った軽自動車で走行中、センターラインをオーバーして前方から来たクレーン車と正面衝突し、後部座席に乗っていた者が車外へ投げ出されて死亡し3名も重軽傷を負った。	231	17	10～ 29
2002	6	7 ～ 8	物流センター構内で、バッテリー式フォークリフト(最大荷重0.9t)を運転中、高さ1mのプラットホームからフォークリフトとともに後方から墜落し、地面とフォークリフトのヘッドガードとの間に挟まれた。	222	1	1000 ～ 9999
2002	10	8 ～ 9	廃材の入った袋をフォークリフトで原料倉庫に運び、空袋を原料倉庫脇の空袋置場に持って行くため地上から2.6mの高さに上げたフォークに空袋を掛けて走行中、同様に空袋をフォークに掛けて原料倉庫内から後進してきたフォークリフトの左側マストにフォークリフトの左側のフォークが接触して転倒し、地面とサイドガードとの間に腰部を挟まれた。	222	2	50～ 99
2002	11	13 ～ 14	ガソリンスタンドで小型タンクローリー(3k?)に軽油を入れて走行中、右カーブで車体のバランスを崩して横転し、そのままガードレールを破って道路脇の溝(深さ約3m、幅約6m)に車体ごと転落した。	221	17	100 ～ 299
		16	印刷用ロール紙(高さ765mm×直径1085mm、質量405kg)をトラックから自動倉庫の搬入口にフォークリフトで搬入中、印刷用ロール紙の搬入			

2002	12	～	口へのセットが完全では無かったたのでその状況を確認、調整に行ったと	611	4	10～
		17	きに、高さ約1.5mの搬入口から落下した印刷用ロール紙の下敷きになっ			29
			た。			
2003	1	～	フォークリフトで、機械装置の一部の荷（高さ約265cm×幅約85cm×奥	221	1	30～
		11	行約80cm、質量約900kg)をトレーラー上のコンテナに積込中に、荷がバ			49
			ランスを崩して横転したので、コンテナ内で作業の指揮をしていた者が倒			
			れた荷を避けようとしてバランスを崩し、地上に転落（高さ約70cm）し			
			た際にアスファルトの地面で頭部を強打した。			
2003	2	～	製鉄所の倉庫で、最大荷重8tのラムフォークリフトで金属コイルを搬入し	222	6	10～
		13	ていたときに、倉庫内で作業していた他の労働者をラムフォークリフトで			29
			はねた。			
2003	3	～	船舶用緩衝材の金型保管ヤードで、天井クレーンで金型（鉄製、長さ	211	4	10～
		14	3.8m、幅1m、高さ1.1m)を2段に重ね置いたのち、次の荷役のため外し			29
		15	た玉掛けワイヤを巻き上げていたところ、ワイヤが金型の蓋（質量約2t）			
			に引っかかったため、ずり落ちて退避しようとしていた者に激突した。			
2003	7	～	コンテナで搬入してきた輸入合金鉄石（袋詰め）を倉庫内に降ろすための	141	6	10～
		8	準備作業として、ショベルローダーを倉庫内にバックで進入させていたと			29
		9	き、倉庫内に停車していたフォークリフトに当たりそうになったので、			
			フォークリフトの運転手が止めようとしたがショベルローダーの運転者が			
			気付かず、ショベルローダーに激突された。			
2003	10	～	トレーラーに積まれてコンテナ蔵置場に搬入されてくるコンテナに蔵置位	221	7	10～
		8	置をチョークで書き込む作業を行っていたときに、先に搬入を終えて蔵置			29
		9	場から公道へ出ようとしていたトレーラーに牽引された空シャーシの後部			
			と作業中のコンテナとの間にはさまれた。			
2003	12	～	駐車場において、コンテナトレーラーのトラックから降車して、トラック	221	7	1～9
		15	ヘッド部とコンテナを搭載したシャーシの連結部の取外しを行っていた			
			ときに、トラックヘッドのサイドブレーキをかけていなかったため無人の			

		16	トラックヘッドが動きだしたので、これを止めるためトラックヘッドに飛び乗ろうとして隣に停車していたコンテナとトラックヘッドとの間にはさまれた。			
2004	9	15 ～ 16	バッテリー式フォークリフトを使用して、倉庫内でパレットに乗った荷（ペーパータオルが箱詰めされたもの）を荷置き作業をしていた時に、パレット二段積みの上部が荷崩れした。このため被災者は運転席前に載り、ヘッドガードとマストの間からこれを直そうとしたが、この時、誤ってティルトレバーに触れたためにフォークリフトのマストが傾斜し、ヘッドガードとマストとの間に挟まれた。	222	7	1～9
2004	10	9 ～ 10	倉庫内の出荷作業で、製品を積むパレットの上に乗って、フォークリフトで3mほどの高さに昇り、製品棚から製品を取り出す作業を行っていたところ、パレット上から3m下の床に転落した。	222	1	10～ 29
2004	4	7 ～ 8	50ccバイクで、市道を走行中転倒した。	231	17	10～ 29
2004	11	6 ～ 7	搬入されたコンテナから製品を荷下ろしする作業の準備でフォークリフトを使用し、専用パレットの用意をしていたところ、専用パレットの手すりが外れていたため、当該手すりを運転席に乗り直していたところ、右足がマストのレバーを押し下げ、被災者がマストとヘッドガードに挟まれた。	222	7	1～9
2004	3	14 ～ 15	フォークリフトにより荷の積み込み作業を行っていたところ、フォークリフト上の荷が崩れ、一時運転席を離れて、フォークリフトの近くにいた被災者に落下した。	611	4	1～9
2004	1	15 ～ 16	マフラー工場レイアウト変更工事において、バフ機を1階から2階へ移設し、ベースの調整のためバールで押し上げたところ、ベースの調整を行っていた被災者にバフ機がバランスを崩して転倒して、被災者が挟まれた。	612	5	1～9
2004	6	9 ～	建築資材（H鋼、300×300×6000mm、0.6 t を2本横に繋げたもの）をトレーラーからクレーンで荷下ししていたが、1つ目を下ろす際、H鋼間に敷く番木がなかったため、階段状の3段目に仮置きした状態で番木を探し	521	4	1～9

		10	に行った。その後、被災者が番木を見つけて戻って来たところ、突然、仮置きしていたH鋼が崩れ落ち、被災者を直撃した。			
2004	11	6 ～ 7	自動販売機で飲み物を購入するため、駐車スペースにトラックを駐車し、道路の反対側に渡るため横断歩道を歩行中、走行してきた大型トラックにはねられ、さらに後続のキャリアカーにもひかれた。	221	6	30～ 49
2004	10	16 ～ 17	内面仕上げのために作業場内に仮置きした鑄鉄管の位置を微調整しようとして、他の作業者がトラバースで約30cm移動させたところ、被災者が当該鑄鉄管と隣の作業台に置いてあった鑄鉄管の間に挟まれた。	521	7	50～ 99
2004	2	14 ～ 15	トラックコンテナからホッパーに魚粉を入れる作業を行うため、詰所から作業場所へ向かって岸壁を歩いているときに、海中に転落した。	999	10	30～ 49
2005	3	9 ～ 10	フォークリフトで篩（ふるい）網を床に下ろす作業中、篩網の上に乗し、運転手に合図を送っていたところ、3m下のコンクリート床に墜落した。	418	1	50～ 99
2005	6	14 ～ 15	トラックの荷台で計量器の積込み作業中、バランスを崩しコンクリート地面に転落した。	221	1	1～9
2005	12	9 ～ 10	天井クレーンを使用して2段重ねに置いてある鋼板コイルの移動作業中、下段に並べたコイルが滑動したため、上段に積んでいたコイル（重さ13トン）が斜め方向に落下、玉掛けの補助をしていた被災者は、落下したコイルと背後に並べていたコイルとの間に挟まれた。	611	7	30～ 49
2005	11	16 ～ 17	作業場所に徒歩で向かう途中、走行中のフォークリフトの爪に引っ掛けられ、左前輪でひかれた。	222	6	300 ～ 499
2005	3	15 ～ 16	フォークリフトで構内道路を走行中、下りスロープとなった構内道路の路肩に寄り過ぎたため、フォークリフトごと40cmの段差を転落、横転したフォークリフトの下敷きとなった。	222	1	10～ 29

2005	9	2 ～ 3	トラックで国道を走行中、歩行者用信号が赤になり前の車両が止まったところに追突し、ハンドルと座席との間に挟まれた。	221	17	10～ 29
2005	1	16 ～ 17	パレットのはい積み作業中、フォークリフトのマストとヘッドガードの間に挟まれた。	222	7	30～ 49
2006	1	13 ～ 14	午後1時から建物の2階でピッキング作業（配送伝票による荷出し作業）をしていた被災者が、1階の製品を取りに行くためエレベーター（搬器の扉なし）を使用して1階へ行き、出荷のための荷を台車に積み、2階へ行くためエレベーターを使用したところ、搬器と昇降路にはさまれた。	214	7	50～ 99
2006	3	12 ～ 13	倉庫内において、フォークリフトを運転し、パレット積みした商品を出荷場へ運ぶ作業中、高さ94センチメートルのプラットホームからフォークリフトと共に地面へ転落した。	222	1	1～9
2006	4	8 ～ 9	国道をトラックで走行中、中央分離帯を越え下り線に進入し、下り線走行中の乗用車と衝突した。	221	17	50～ 99
2006	5	9 ～ 10	構内において、手前に2段の荷（木材）の上段を一束取ろうとしてフォークリフトの爪を入れて持ち上げ、後方に下がったところ、後列に積んであった荷が崩れ、隣で検品していた被災者に当たった。	611	4	1～9
2006	8	0 ～ 1	T字路で、被災者が歩行中に丁字路を右折しようとして前進してきたフォークリフトにひかれた。	222	7	10～ 29
2006	9	5 ～ 6	夜勤終了時間（午前6時）が近づき、フォークリフトに充電を行うため、充電場所に向かう際、シャッターを通常はリモコン操作で上げているが、リモコンを持っていなかったため、フォークリフトをバックさせながらフォークリフトから身を乗り出して、手動でシャッターの操作をしようとして、壁とフォークリフトのヘッドガードの支柱にはさまれた。	222	3	10～ 29

2006	9	18 ～ 19	被災者は、当日目的地までワゴン車を運転し客先に荷物を届け、戻るため高速道路を走行していたところ、前方を走行していた乗用車がガイドロープ支柱に衝突し、その弾みで中央分離帯のガードレールにぶつかり停止した。被災者は左車線に車を止め、乗用車の運転席に近づいたところ、後方から来た4トントラックにはねられた。	221	17	10～ 29
2006	6	15 ～ 16	廃業した印刷所（木造モルタル3階建て）の印刷機等を撤去・搬出する作業を5社10名で行っていた。1階で空ドラム缶（エンジンオイルが入っていたもの、内容量200リットル）の蓋の部分、ディスクグラインダー（手持ち式研磨機）で切断していたところ、火災が発生し、短時間に燃え広がり、3階で作業をしていた3名が逃げ遅れ被災した。	159	16	1～9
2006	6	15 ～ 16	廃業した印刷所（木造モルタル3階建て）の印刷機等を撤去・搬出する作業を5社10名で行っていた。1階で空ドラム缶（エンジンオイルが入っていたもの、内容量200リットル）の蓋の部分、ディスクグラインダー（手持ち式研磨機）で切断していたところ、火災が発生し、短時間に燃え広がり、3階で作業をしていた3名が逃げ遅れ被災した。	159	16	1～9
2006	9	10 ～ 11	被災者は、前日に降った雨により製品倉庫内に保管してある出荷前の商品が雨漏りによる影響がないかを確認するため、朝礼終了後一人で製品倉庫へ向かい、7月に補修した製品倉庫の屋根の状況を確認しようと3階の非常口から屋外のベランダに出て、補修箇所の外観を確認していたところ13.3メートル下の構内通路面に墜落した。	418	1	1～9
2006	10	9 ～ 10	高さ約90cmの作業台上の建屋天井にある蛍光灯（高さ約4m）を取り替えるべく、付近にはしごを設置し被災者が登り、他の労働者がはしごの足元を押さえ作業を行っていたところ、当該蛍光灯が落下した。これを避けるためはしごを押さえていた労働者が退避したため、はしごと共に墜落した。	371	1	10～ 29
2007	4	1 ～ 2	作業者が社有車である乗用車を運転し同僚3名を乗せ帰宅途中、T字路で右折したところ、反対車線を直進してきた乗用車に側面から衝突され、同乗者が死亡した。	231	17	50～ 99

2007	4	1 ～ 2	作業者が社有車である乗用車を運転し同僚3名を乗せ帰宅途中、T字路で右折したところ、反対車線を直進してきた乗用車に側面から衝突され、同乗者が死亡した。	231	17	50～ 99
2007	4	1 ～ 2	作業者が社有車である乗用車を運転し同僚3名を乗せ帰宅途中、T字路で右折したところ、反対車線を直進してきた乗用車に側面から衝突され、同乗者が死亡した。	231	17	50～ 99
2007	10	14 ～ 15	被災者はトレーラーに積載されたコンテナ内部で積荷（木製杭1束10本、約6.5kg）をパレット上に合計70束（パレット重量を含め500～600kg）移し替え、一人で積荷をパレットごと搬送ローラー（非駆動）でコンテナ後方に移動し、荷卸しするため地上で待機中のフォークリフト運転手に声を掛けたが不在であり、地上に降りたところ、パレットと積荷が落下して下敷きとなった。	611	4	10～ 29
2007	8	16 ～ 17	当日、同僚と倉庫内でホームセンター店舗の各種商品の仕分け作業を行っていた。勤務終了時間近くになって、同僚が被災者の姿が見えないことに気がついて捜したところ、倉庫内のトイレの中で意識のない被災者を発見した。なお、災害発生地の当時の気温は30.1℃であった。	715	11	50～ 99
2007	9	6 ～ 7	被災者は、単独で、各種飲料食料を出荷するための空のプラスチック製のかご（通称バットと呼ぶ）の整理整頓作業中、穴の直径90cm、深さ約8mの雨水集水升に升の蓋とともに落下した。雨水集水升の穴の上には、コンクリート製の蓋が常時置かれている。この蓋は同じ大きさをした2つの半月状に分離されている。	414	1	10～ 29
2007	4	16 ～ 17	被災者は5階冷凍庫から荷をリーチフォークリフトを使用して、エレベーターに積む作業をしていた。荷を積んでいないリーチフォークリフトを運転中、エレベーターに後部から激突し、衝撃によりエレベーターの戸（左右開き）を昇降路内に押し込み、その結果、戸にできた隙間より昇降路内へ落ち、1階停止中のエレベーター搬器天井に墜落した。	222	1	100 ～ 299
2007	5	20 ～	事業場内において、日勤を終え帰宅途中の作業員（被災者）が、夜勤中の他の作業員が運転するフォークリフト（積荷荷重6t）に後方から走り	222	7	10～

		21	寄ったところ、フォークリフトの左後輪にひかれた。			29
2007	5	12 ～ 13	倉庫内において、フォークリフト（最大積載荷重1.8t）を使用し段ボール箱入り商品パレット（上段16箱、下段18箱、1箱約3kg）を置き場に運搬作業中、上段の1箱が落下しそうになったため、フォークリフトを停止しマストの間に立って手直ししようとした際、当該1箱が操作レバー上に落下したため、マストが傾きマストとヘッドガードにはさまれた。	222	7	30～ 49
2007	9	9 ～ 10	圧力容器（重量14t、台座フレームの寸法7.5m×2.5m）の輸出のための梱包作業中、底板のパレット（重量2t）と台座フレーム付き圧力容器の四隅をボルトで仮止めした後、クレーンで床から80cm程度つり上げ、パレット底部からインパクトレンチで本締めしようとしたところ、インパクトレンチが左回転したためにボルトが緩んで抜け落ち、パレットが落下して被災者に激突した。	379	7	10～ 29
2008	12	15 ～ 16	ふるい分け工場内において、被災者と同僚2名はホッパー内の粒状肥料をフレコンバックに詰め込む作業を行っていた。同僚の携帯電話に被災者から電話があり、同僚は被災者が何も話さないため周りを見たところ、ホッパー出口から被災者の足が見えたため、救出して病院に搬送したが、翌日死亡した。	418	1	30～ 49
2008	7	13 ～ 14	事業場構内でクレーン積載形の4tトラックに荷物（プレカット材）を積み込んだ後、同僚1名と共に荷締め作業を行っていた。被災者は、積まれた荷物の上（地上高さ約2.5mの位置）で当該作業をしていたところ墜落して死亡した。	221	1	10～ 29
2008	3	13 ～ 14	社用車（軽ワンボックス）で荷物の配送中、自動車道の走行車線から中央分離帯に激突して車が横転して死亡した。	231	17	10～ 29
2008	3	10 ～	エレベーターのない5階建住宅へ約10kgの商品を届けに階段を上っていたところ、2階から2、3段上ったところでバランスを崩して踊り場へ転落し	413	1	1～9

		11	た。			
2008	8	10 ～ 11	梱包がほどけたスリットコイル（板厚1.6mm、板幅75mm、重量569kg）をフォークリフトの爪を利用してスリットコイルの穴に通して修正作業を行おうとしていたところ、背後から別のスリットコイル（板厚1.4mm、板幅153mm、直径1300mm、重量1377kg）が倒れて下敷きとなり死亡した。	611	5	30～ 49
2008	11	13 ～ 14	資材置場で鋼管杭(直径80cm、長さ15m、重さ2.6t)4本をトレーラーに積み込む作業をしていた。3段に積まれた鋼管杭から、2段目の鋼管杭をつり上げるためにハッカーを用いて玉掛け作業中、鋼管杭が荷崩れを起こして転がり落ちた。玉掛け者であった被災者は、鋼管杭から飛び降りたところを転がり落ちた鋼管杭にひかれて死亡した。	611	5	10～ 29
2009	7	9 ～ 10	客先に家具の配送を行い、玄関の外の通路で家具から解いた段ボール等を回収するとき、後ろ向きに倒れた。	921	2	1～9
2009	1	17 ～ 18	資材置場での作業が終了し、事業場へ戻るために、25tの移動式クレーンを誘導していた被災者が、公道を走行していた乗用車にひかれた。	231	17	1～9
2009	1	22 ～ 23	トラクター（トレーラー（台車）の牽引車）の運転者である被災者がトラクターを傾斜路に停止させ、作業のため降車したところ、トラクターが逸走し始めたので、被災者は逸走したトラクターを停止させるため、運転席に乗り込もうとしてトラクターの右前輪に巻き込まれた。	221	7	30～ 49
2009	4	14 ～ 15	被災者は、入庫ホーム上で、飲料入りケースをベルトコンベヤーに投入する準備作業中に足を踏み外してホーム下に転落した。	418	1	100 ～ 299
2009	9	14 ～	屋外製品ヤードにおいて、クレーンでトラックに3本の鋼管を積み込んだ後、助手席側のおおりを閉めようとしたが、台木がおおりに当たって閉まらなかったため、台木の位置を修正しようと被災者は別の台木で叩いていたところ、積み込んだ鋼管（1410kg、800A×7500mm）2本が転がり落	611	5	100 ～

		15	ち、被災者に激突した。なお、鋼管の転位を防止するため、2箇所にくさびが設けられていた。また、路面は助手席側に傾斜していた。			299
2009	6	16 ～ 17	工場の原料倉庫内において、仮置きした鋼鉄コイル（外径82cm、内径48.5cm、幅1.07m、重量約2.1t）付近に、無線操作式天井クレーン（定格荷重22t）で別の鋼鉄コイル（外径78cm、内径49cm、幅1.165m、重量約1.8t）の積み付け作業を行っていたところ、当該鋼鉄コイルが被災者に激突し、仮置きしていた鋼鉄コイルとの間にはさまれた。	611	6	30～ 49
2010	2	8 ～ 9	被災者含め5名で、肥料の入ったフレコンバック（乱袋、重量約1t）の詰め替え作業において、1台のフォークリフトでホッパー（鉄製、重量約330kg）を上げ、もう1台のフォークリフトで同フレコンを吊り上げながら、ホッパー上からカッターで切ったところ、塊となった肥料が落下し、その反動でホッパー側のフォークリフトが前方に傾き、ホッパーを爪に固定していなかったためホッパーが滑り落ち、下敷きとなったもの。	222	6	10～ 29
2010	2	17 ～ 18	被災者は、フォークリフトを充電するための所定の位置（約8度のコンクリート斜面のスロープ）で、口から血を出して倒れているのを発見された。被災者の傍にあったフォークリフト（カウンターバランスフォークリフト、電気式、最大荷重1.5t）は、スロープ下の壁へ激突し停止した状態であった。被災者を発見した時、フォークリフトの電源スイッチは入っておらず、サイドブレーキがかかっていなかったことから、被災者が充電をするためフォークリフトを降りたところ、サイドブレーキが完全にかかっていなかったため、フォークリフトが後退し挟まれたとみられる。	222	7	30～ 49
2010	4	5 ～ 6	営業所の倉庫内で、トラック荷台の後ろに飲料水等の荷物が積まれた手押し台車の下敷きになって死亡している被災者を従業員が発見したものである。荷降ろし作業中に誤って、台車の下敷きになったとみられる。	611	4	100 ～ 299
2010	6	15 ～ 16	被災者が、事業場構内においてフォークリフトを運転中、双方の前方不注意により、交差点で左側から来た8tトラックと衝突し、フォークリフトから投げ出され、転倒したフォークリフトのヘッドガードと地面の間には	221	6	1～9

			さまれ、死亡した。			
2010	11	7 ～ 8	トラック運転手である被災者は、運送先事業場構内において、荷役で使うフォークリフトに乗車（使用）する前に、エンジンをかけ、マストと車体フレームの間に乗り、ヘッドガード上に雨天で溜まった水を雑巾で拭き取る作業を行っていたところ、マストの操作レバーに何らかの原因で被災者の体の一部が接触し、本体側に動き出したマストと車体フレームの間に腹部を挟まれ死亡した。	222	7	10～ 29
2010	11	10 ～ 11	被災者は倉庫においてロールクランプを運転する労働者2名の積み込み作業の作業指揮を行っていたところ、バック走行してきたロールクランプの運転者が後方をよく確認しておらず、ロールクランプに接触されて被災者が転倒し、コンクリート床面に頭を強打したものの。	222	6	1～9
2010	11	13 ～ 14	コンビニエンスストアの各店舗から回収された段ボールをリサイクルセンター内の圧縮機で梱包する作業中、被災者は圧縮機のホッパー内に誤って混入したプラスチック容器を取り除くため、電源を切らずにホッパー内に立ち入ったところ、ホッパー内の側面から押し出されるプレスラムとホッパー内の刃に両足を挟まれて膝付近から切断された。ホッパー内でうつ伏せに倒れているところを同僚が発見し救急車で病院に搬送されたが死亡したものの。	169	7	30～ 49
2010	11	16 ～ 17	荷の検品作業のため倉庫内に入ろうとしたところ、電動式大扉が故障していたため、非常用扉を開け、被災者Aが倉庫内に5～6m立ち入ったところ、倒れた。続いて被災者Aの様子を見に行った被災者Bが被災者Aを発見し、救援を呼んだ直後、被災者Bも非常用扉付近で倒れたもの。救急搬送されたが2名とも死亡した。倉庫内の荷（フレコンバック約320袋に入った醤油粕）が酸素を消費し、酸素欠乏場所となっていた。	714	12	1～9
2010	12	8 ～	被災者は、事業場の敷地内にある製品置場において、トラックの荷台の紙製品（重量約1t）を横持ち作業するため、フォークリフトを運転し、トラックの荷台の紙製品をクランプ（アタッチメント）で挟み、一旦左後方にバックした後、紙製品を挟んだ状態でリフト（上昇）させながら右旋回	222	2	10～ 29

		9	動作で前進していたところ、フォークリフトの安定度が失われて転倒し、ヘッドガードの支柱の下敷きとなり死亡したものの。			
2011	5	14 ～ 15	物流倉庫内で、仕分けした製品の運搬のため、製品ラックの間（通路）をフォークリフト（リーチフォーク）で運行中、方向転換をするため製品ラック方向にバックしていたところ、製品ラックに置かれた積荷パレット（重量約360キログラム）に激突、フォークリフトとパレットの間に挟まれ、胸部圧迫により死亡した。	222	3	30～ 49
2011	9	18 ～ 19	トラックで産業道路の上り線を走行中に苦しくなり、車道左側に臨時停車し自ら119番通報したが意識がなくなり、救急隊到着後には心肺停止状態で、病院へ搬送されたが死亡が確認された。平成24年2月21日支給決定	921	90	10～ 29
2011	4	8 ～ 9	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ（3m×4m 深さ5m）内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すために下部排出口を解放したため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したものの。	418	1	10～ 29
2011	4	8 ～ 9	港湾倉庫に設置されるコーン等の穀物飼料が保管されているコンクリート製サイロ（3m×4m 深さ5m）内部において、飼料の増量保管する空間を確保するため、作業員3名で砂山状に堆積された穀物飼料を均していたところ、別作業員が当該飼料をサイロから取り出すために下部排出口を解放したため、内部にいた1名は梯子につかまり無事であったが、他の2名が流出する当該飼料に飲み込まれ、埋没し胸部圧迫により死亡したものの。	418	1	10～ 29
		13	被災労働者は、オーダーピッキングトラックを用いて、ピッキング作業中、ラック3段目から、ダンボール1ケースをピッキングする際に、運転			

2011	2	～ 14	席床面高さ約3メートルから、墜落したものの。オーダーピッキングトラック運転席には、取り外し可能な手すりが両脇と正面に設けられているが、正面の手すりは、使用されていなかった。また、被災労働者は、安全帯は着用していたものの、使用していなかった。	222	1	50～ 99
2011	6	3 ～ 4	事業場北側のホームへ到着した20トン保冷車の運転手が、荷台上の全ての荷を降ろした後に、荷台の扉を開けたまま、事務所へ配送完了の報告に出向いた。この間にホーム上で別の作業を担当していた被災者が、荷台へ入り込んだ。運転手は事務所から戻り、荷台の確認をせず、扉を開けたまま事業場南側の燃料スタンドへ時速約25kmで移動したところ、荷降ろしたホームから約65m離れた地点で被災者が荷台から転落した。	221	1	300 ～
2011	10	9 ～ 10	設備の搬出、運搬のため、フォークリフト（最大荷重1.5トン）を運転していた被災者は、運転席を離れてマストとヘッドガードの間で何らかの作業をしていたところ、リフトレバー（フォークを上昇、下降させるレバー）及びティルトレバー（マストを傾斜させるレバー）に誤って触れ、マストが上昇及び運転席側への傾斜をしたため、マスト上部の横架材とヘッドガード前部フレームとの間に頭部を挟まれ、被災した。	222	7	1～9
2012	2	15 ～ 16	被災者は、13tトラックの荷台の後方で、開いていた観音開きの後部扉から飛来落下したコンパネ板（木製、900mm×1800mm、厚さ8mm、1枚あたり重量10kg）13枚の下敷きになり、搬送先の病院で死亡した。	379	5	100 ～ 299
2012	7	6 ～ 7	社用送迎車両を運転して空港内駐車場まで行った後、ロッカー室に向かうべく歩行中、横断歩道上で右折してきたトラックにはねられ、搬送先の病院で脳挫傷により死亡した。	221	6	300 ～
2012	8	15 ～ 16	被災者は食品倉庫内作業場にて仕分け作業を行っていた際、当該作業場所に配送業者が仮置きしていたフォークリフトを運転中、フォークリフトのフロントピラーとラックの支柱に頭部をはさまれ被災した。	222	7	100 ～ 299
		21	ノロ処理場において、被災者は冷却後のノロを移動するためトラクター・ショベル（機体質量9,150kg）を運転し、駐機場から処理場に移動した。同僚がラガー車でノロを運んできた際、ノロ冷却に使用した水を貯めてお			30～

2012	7	～ 22	くピットにトラクター・ショベルが転落しているのを発見し、被災者を捜索したが発見できないため警察に連絡。警察等が被災者を発見したが、既に死亡していた。	141	1	49
2013	11	13 ～ 14	大豆貯蔵用サイロ（高さ30m・直径7.4m、RC造）下部取り出し口から大豆を取り出す作業中、大豆の出が悪くなったため、取り出し口付近上方に設けられた点検口を開け、下方に溜まった大豆を棒で突き落とした直後に、サイロ内部で爆発が起こり、サイロから20m付近で待機していた被災者の頭部に崩壊したサイロのコンクリート片が当たり、搬送先の病院で死亡した。	418	14	10～ 29
2014	8	19 ～ 20	自動車を走行中、ハンドル操作を誤り、中央分離帯に衝突。後続車に激突され、死亡した。	231	17	50～ 99
2014	8	11 ～ 12	清掃作業中、トイレ内にて、ズボンを膝まで下げ、壁に倒れ掛かった状態の被災者が同僚に発見された。熱中症により死亡した。	715	11	10～ 29
2014	6	12 ～ 13	軌道装置の合流点にて、被災者が運転していた機関車が、隣接する線路に止められていた貨物車に激突し、機関車と貨物車の間にはさまれた。	223	7	300 ～
2014	6	15 ～ 16	被災者がフォークリフト運転者に対し搬器を下すように合図をし、搬器を下した際、被災者が意識を失った状態で倒れ、脳挫傷により死亡した。	222	1	1～9
2014	1	5 ～ 6	翌日の勤務に備え、事業場内に駐車した自家用車の車内で仮眠を取っていた被災者は、事業場敷地内の簡易トイレのそばで倒れているところを発見され、虚血性心疾患により、死亡した。死亡前1ヶ月間の時間外労働は、100時間を超えるものであり、死亡前2ヶ月間の平均の一月当たりの時間外労働は、90時間を超えていた。	921	90	1～9
		21	天井クレーンを用いて、パレット台車に熱延鋼板を積み込み、玉外しを			1000

2015	10	～ 22	行った後にクレーンを走行させているときに、玉掛用具であるハッカーが積み込んだ熱延鋼板に接触し（推定）、積み込んだ熱延鋼板の上部5枚（2.6t）が荷崩れを起こし、被災者に激突した。	372	5	～ 9999
2015	10	～ 11	コンテナトレーラーと合板材を搬出するための作業台に挟まれた災害コンテナトレーラーを後退させ作業台へ接続する作業を行う際被災者がトレーラーに挟まれたものと思われる。	221	7	10～ 29
2015	6	～ 15	倉庫内において天井クレーンを使用して平鋼の束（幅26cm、高さ17.1cm、長さ5.5m、重量約1.9t）の移動作業を行っていたところ、5段に積み上げた平鋼の束の上から3段分が玉掛けワイヤーを外す作業を行った後、移動していた被災者の方に崩れてきて、被災者が崩れた平鋼の束に挟まれたもの。	611	5	1～9
2015	11	～ 19	被災者等はフォークリフトを使用してドーリーから積み荷（ドイツからの空輸便）を降ろす作業を行っていた。積み荷の中央には、パレット付けされた荷の間に挟み込んでキャスター付きの折りたたみ式ランポリンが積み込まれていたが、当該ランポリン周辺の片側の積み荷が降ろされた際に、キャスターが動き、ドーリーの台座のすき間の溝に脱輪した後に倒壊し、被災者が下敷きとなったもの。なお、被災者は技能実習生であった。	229	5	100 ～ 299
2015	12	～ 9	被災者は、隣接の冷凍倉庫会社の冷蔵庫に保管してある商品を受け取るため、同社に書類を提出して、元の作業場所に戻ろうとした際、傾斜している駐車場に駐車して運転手が乗車していなかった別会社の2トン保冷車が動きだし、被災者に激突したもの。	221	6	1～9
2015	5	～ 16	被災者を含む作業員5名（運輸会社の労働者1名と合同会社の労働者4名）はフォークリフトを使用し、鉄板の移動作業をしていた。被災者は、フォークリフトが抱えた鉄板を下す場所（床面）に、当該鉄板を支えるためのりん木を並べ、りん木の位置を調整をしていたところ、被災者の後方にある扉に立て掛けられていた重さ約1tのバーインコイルが被災者の上に倒れ、下敷きとなったもの。	611	5	30～ 49
		10	トラックターミナル内で仮眠を取っていたところ、14時30分頃に同僚			

2015	2	～	11	が異変に気づき救急搬送された。「心筋梗塞」と診断され、同日16時12分に死亡した。	921	90	30～ 49
2016	7	～	17 18	2階の冷凍倉庫内で、立ったまま運転するフォークリフト（リーチ式）を用いて荷物の整理を行っていた労働者が、フォークリフトの操作台とフォークリフトの後ろに設置されていた棚の間に背中から挟まれ、胸などを強く打って死亡した。	222	7	100 ～ 299
2016	4	～	13 14	倉庫内において、ピッカー車（バッテリー式フォークリフトで、運転席がフォークとともに上下するもの）から、約3m下の床に墜落した。	222	1	10～ 29
2016	3	～	14 15	パレタイザー（商品の入った箱をパレットに自動で積みつける機械）がエラーにより停止した為、被災者含め2名で復旧作業を行っていた。復旧確認の為にパレタイザーを動かした際に、被災者がパレタイザーのウェイトとパレタイザーの柱に挟まれた。	169	7	100 ～ 299
2016	3	～	1 2	長時間労働により精神障害を発病し、自宅で自殺をした。	921	90	1～9
2016	3	～	13 14	被災者は、橋形クレーン（5.07t）を使用し、トレーラーヘシートパイル（8枚1山（約4t））の積み込み作業を行っていた。トレーラーの運転手が玉外し後、玉掛けワイヤー（4m）をクレーンのフックにのの字掛けにした。次の山を取りに行くため、被災者がクレーンを走行させていたところ、ヤード内に段積みされていたシートパイル2枚が落下し、被災者に激突した。	211	4	10～ 29
2016	2	～	9 10	空のフレコンバッグの仕分けをする作業場で、フォークリフト運転者が空のフレコンバッグが入ったコンテナ（約110kg）5個を積み上げて仮置きした後、上4個を後方に運ぼうとフォークリフトで持ち上げたところ、コンテナがバランスを崩してフォークリフト前方に倒れ、仕分け作業を行っていた被災者の頭上にコンテナが落下した。	611	5	10～ 29

2017	12	10 ～ 11	重量2.5tの旋盤をトラックから降ろし、指定場所へ置く作業中、当該旋盤をジャッキで上げ、旋盤の下に設置した台木を鉄製ブロックに入れ替える際に旋盤が転倒し、作業員2名が下敷きとなった。	361	4	30～ 49
2017	12	10 ～ 11	と畜場において、一部加工された枝肉を冷蔵庫からトラックに積み込む際に使用する枝肉搬入コンベアの先端部のベルトプリー部に、被災者が着用していたヤッケの一部が巻き込まれ、宙づりで頸部を圧迫された状態で発見された。	224	7	10～ 29
2017	9	14 ～ 15	被災者は、事業場構内でコンテナの荷役作業に伴うトレーラー等の車両の誘導業務を行っていた。被災者は、待機中の移動式クレーンに構内侵入を伝えに行った。その後の被災者の行動経路は不明であるが、荷降ろしのために向きを変えようと旋回（前輪を軸に後輪を駆動させ旋回）していたフォークリフト（24トン）の後部と接触し、倒れたところを当該リフトの後輪でひかれた。	222	7	10～ 29
2017	8	4 ～ 5	被災者は線材梱包ラインの最終工程であるラベル貼りを終え、梱包線材を自動搬送台車によりクレーンでの吊り位置まで搬送するため搬送台車の起動ボタンを押した際に、台車上にカッターを落としていることに気づき、取りに行こうと台車の稼働領域に立ち入ったところ、荷をクレーン吊り位置に預け終わって戻ってきた台車の車輪に右足をひかれた。	169	7	1000 ～ 9999
2017	8	6 ～ 7	フォークリフトを操作して荷のピッキング作業をしていた被災者は、後進中のフォークリフトごとプラットホーム（高さ99cm）から墜落し死亡した。	222	1	50～ 99
2017	5	4 ～ 5	帰宅途中、運転中に具合が悪くなり、道路の中央で意識がない状態で病院に運ばれ、心不全で死亡した。	921	90	300 ～ 499
2017	1	10 ～ 11	被災者が倉庫内で荷（フィルムロール）の積み卸し作業をフォークリフトで行っていたが、作業中にフォークリフトの積み荷が崩れ、下敷きになった。	222	5	1～9
		10	当該事業場内倉庫において、高さ約3.8メートルのフォークリフトのパ			

2018	11	～	レット上に乗って、商品をピックアップしていたところ、誤って墜落し、頭	222	1	30～ 49
	11		部を強打して被災したものの。			
2018	9	～	ピックアップ作業の1ラインを請け負っている物流センターの体感温度3	715	11	50～ 99
	18		0℃以上の倉庫内にて、2時間ごとの休憩で水分補給を行いながら商品仕			
	19		分け作業をしていたところ、3回目の休憩後に被災者から体調不良の申出			
			がなされ、休憩を延長していたが、動けなくなるとともに過呼吸状態とな			
			り、救急搬送され、後日熱中症で死亡したものの。			
2018	7	～	構内下請の被災労働者は竹箒を使って倉庫内の清掃を行っている際に、ふ	715	11	1～9
	16		らつきが認められたため、速やかにスポットクーラー前に寝かせるととも			
	17		に、冷却剤や経口補水液等の処置が行われた。被災者は会話や自力での歩			
			行が可能だったことから、病院には行かず、その日の夕刻に帰宅したが、			
			翌日朝に自宅で死亡しているところを発見された。死因は熱中症だった。			
2018	5	～	センターにおいて冷凍製品の物流業務に従事していた被災者が、同セン	921	90	100 ～ 299
	6		ター2階冷凍庫において、フォークリフトに乗って意識を失っているところ			
	7		ろ、他の労働者に発見されてもの。発見後、救急搬送され、入院加療を			
			行ったが、死亡した。			
2018	2	～	被災者がフォークリフトのカウンターウエイトの上に設置されたワイヤ	222	1	10～ 29
	8		ロープの位置を直そうと、カウンターウエイトの上に登っていたところ、			
	9		ふらついて後ろ向きに倒れ地上まで落下し、一時心肺停止となった。その			
			後、被災者は心肺停止蘇生後脳症と診断され、後日死亡した。所属事業場			
			は、荷役作業に使用する道具の運搬業務のみを委託されたものである。			
2018	1	～	4段に積み上げられたパレット積みの荷をフォークリフトで移動させよう	611	5	30～ 49
	12		としたところ、3段目と4段目の荷が崩壊、被災者はフォークリフト運転			
	13		席より離脱しようとして4段目の荷（エアコン室内機30箱）の下敷きと			
			なり死亡したものの。			
2019	11	～	被災者は、事業場倉庫内で保管している鋼材を出荷準備するため天井ク	211	6	1～9
	14		レーンを使用し移動させようと操作したところ、ペンダント操作を誤り自			

		16	身の方向へ動かしてしまい鋼材に激突され、後ろ側に積んであった鋼材の上に押し上げられた。救急搬送されたが搬送先の病院で死亡した。			
2019	7	10 ～ 12	フォークリフト（オーダーピッキングトラック）の傍で、被災者が頭部から出血して倒れている状態で発見されたもの。災害発生直後にフォークリフトの運転席が高さ約3mの位置にあったことから、運転席の位置でトラックから荷を取ろうとした際に墜落したものと推定される。	222	1	100 ～ 299
2019	2	14 ～ 16	高さ2.4mのパレットステージ上で、フォークリフトによりステージに上げた段ボールを別のパレットに移し替える作業を行っていた。荷揚げの際取り外したステージの端部の手すりを元に戻すことなく作業を行っていたところ、ステージの端部から墜落した。医療機関に搬送され、脳挫傷と診断を受け治療を行ったが、後日死亡した。ヘルメット、墜落制止用器具は使用していなかった。	416	1	1～9
2019	2	12 ～ 14	5階建冷凍冷蔵倉庫内で荷役作業中、5階フロアから出火し火災が発生し、被災者は初期消火等を試みたため、逃げ遅れ2名が焼死、1名が負傷したもの。火災発生原因は、冷却装置更新工事（脱フロン化工事）に係るアーク溶接作業に起因するもの。	332	16	300 ～ 499
2019	2	12 ～ 14	5階建冷凍冷蔵倉庫内で荷役作業中、5階フロアから出火し火災が発生し、被災者は初期消火等を試みたため、逃げ遅れ2名が焼死、1名が負傷したもの。火災発生原因は、冷却装置更新工事（脱フロン化工事）に係るアーク溶接作業に起因するもの。	332	16	300 ～ 499
2019	1	16 ～ 18	支店内にて作業請負を行っている被災者が倉庫内にて粉末が入っている500キログラムのフレコンバックの積み替え作業を1人で行っていたところ、4段に積まれた最上部フレコンバックとその隣の3段に積まれた最上部のフレコンバックが荷崩れし、被災者が一方のフレコンバックの下敷きになり、窒息により死亡した。	611	5	1～9
2020	12	16 ～ 18	被災者は、トラックで運び込んだ金属を現場に降ろした後、荷台の後ろ扉を閉める作業中に荷台端部分との間に頭部が挟まれ死亡したもの。	221	7	10～ 29

2020	11	18 ～ 20	冷凍室内にてリーチ式フォークリフトを用いて食肉の搬出する作業を終えてパレット等の片づけ作業を行っていたとき、リーチリフトのフォークを上げた状態で後進したところ、マスト上部が冷凍室の出入り口の上部に激突し、運転していた被災者が運転台から投げ出された。災害発生の5日後に死亡した。	222	3	10～ 29
2020	11	2 ～ 4	深夜、事業場4階倉庫フロアにおいて、オーダピッキングトラックを運転し、荷下ろし作業に従事していた被災者が倒れているところを発見された。発見当時、オーダピッキングトラックの運転席は地上約4メートルの高さに停止しており、被災者の傍には荷の段ボール箱が1箱落下していたことから、作業中に墜落したものと思料される。被災者は首の骨を骨折しており、後日死亡した。	222	1	50～ 99
2020	10	10 ～ 12	H鋼（1.6t、7m）を工場の外へ運び出すため、工場内の天井クレーン（10t）を使用してH鋼を台車に乗せる作業を行っていた被災者が、頭部を負傷した状態で台車上に倒れていたもの（即死状態）。H鋼は地面に落ちており、目撃者はおらず。	211	4	1～9
2020	9	8 ～ 10	被災者は、フォークリフトを運転し、空パレットの移動作業を行っていたところ、前進操作中にプラットホーム端部からフォークリフトごと転落し、下敷きになり死亡したものの。	222	1	30～ 49
2020	9	6 ～ 8	被災者ら4名は、埠頭に停泊中のスクラップ運搬船にスクラップを積込む作業に従事するため、社有車にて埠頭で待機中、日差しを避けるため同運搬船の日陰に移動して後退で駐車しようとしたところ、岸壁から海中に転落したもの。運転席以外にいた労働者3名は自力で車から脱出したが、運転席の労働者と脱出したうち1名が溺死したもの。	231	17	30～ 49
2020	9	6 ～ 8	被災者ら4名は、埠頭に停泊中のスクラップ運搬船にスクラップを積込む作業に従事するため、社有車にて埠頭で待機中、日差しを避けるため同運搬船の日陰に移動して後退で駐車しようとしたところ、岸壁から海中に転落したもの。運転席以外にいた労働者3名は自力で車から脱出したが、運転席の労働者と脱出したうち1名が溺死したもの。	231	17	30～ 49

2020	6	2 ～ 4	<p>国道の片側2車線の上り線で、交差点の赤信号停車中の車列に10tトラックが突っ込み、車列最後尾の被災者の3tボックス車、その前の28tトレーラー、その前の10tトラックの計4台の玉突き事故となり、被災者車両は運転席が大破した。被災者は全身打撲の多発外傷で当日、死亡が確認された。</p>	221	17	100 ～ 299
2020	3	6 ～ 8	<p>被災者はドライバー助手として4tトラックに乗車していた。荷主へ荷物を運搬中に追い越し車線から走行車線へ車線変更する際に、走行車線後方を走る大型トラックに自社の4tトラック後方部が接触後、4tトラックはガードレールを乗り越え横転した。備車依頼を行っているため、4tトラックとドライバーは別事業場の所属である。ドライバーは軽傷であった。</p>	221	17	30～ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.htmlに戻る。